

留意点

①病床機能報告は、定性的な基準に基づく自己申告であり、報告結果もまだ流動的

②病床機能報告は病棟単位で4つの機能を選択するが、将来推計は患者数から推計しており、そのまま比較できるものではない

病床機能報告	将来推計		
<p>病棟A (30床)</p> <p>この病棟は、高度急性期機能 (自己申告)</p>	<p>ある日の病棟A</p> <table border="1"> <tr> <td>高度急性期機能相当の患者 15人</td> <td>急性期機能相当の患者 15人</td> </tr> </table>	高度急性期機能相当の患者 15人	急性期機能相当の患者 15人
高度急性期機能相当の患者 15人	急性期機能相当の患者 15人		

ここを高度急性期機能の推計に活用

※将来推計の考え方は、地域医療構想p.27-29

③日頃の診療や業務の中で感じている地域の実情を勘案しながら、地域の医療の現状を見ていく必要がある

区東北部の状況

<H27報告とH26報告の比較>

・平成27年度報告は、高度急性期機能を選択した病床数は対前年の約半数にあたる約260床減で、急性期機能及び回復期機能は、いずれも増加している。

<H27報告の特徴>

- ・一般病棟10対1入院基本料を届け出ている病床数が多く、2,000床を超えており、その全てが急性期機能を選択
- ・一般病棟7対1入院基本料を届け出ている病床のうち約95%が急性期機能を選択し、高度急性期機能を選択しているのは5%
- ・高度急性期機能では、病床稼働率は都平均に比べ低く、平均在院日数は都平均より短い。

<H27報告と将来推計>

・急性期機能を見ると、H27年度病床機能報告の病棟ごとの自己申告による報告は5,468床

・将来(2025年)の患者数は急性期機能相当(600~3,000点)で2,466人と推計され、その患者を診るために必要な病床数は3,162床

・但し、左記のとおりそのまま比較できるものではなく、約2,300床減らさなければならないという見方ではないことに留意

・そのままの比較は困難だが、将来推計において高度急性期機能が病床全体の8.6%を占めるのに対し、自己申告の値は2.6%とかなりのひらきがある。

・回復期機能においても、将来推計において34.7%を占めるのに対し、自己申告の値は10.5%とひらきがある。

・こうしたデータを参考にしながら、区東北部において、不足すると考えられる機能や役割を検討する必要がある。

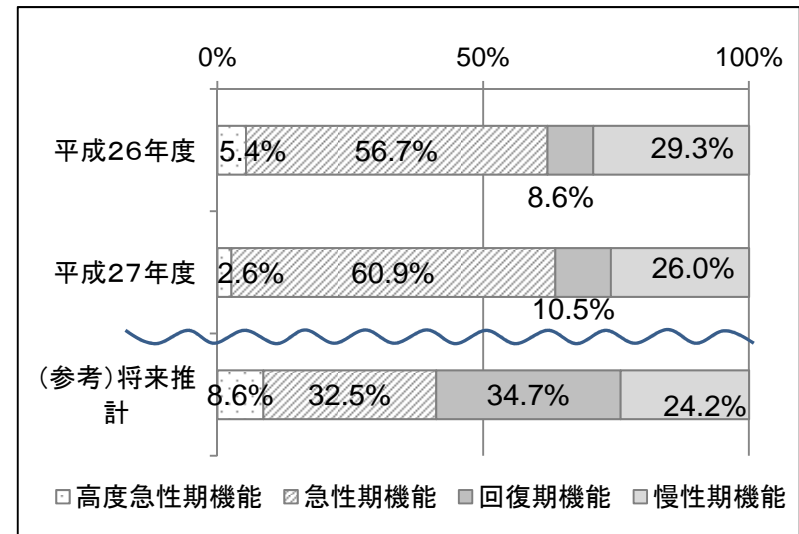
<データ1> 病床機能報告における4機能ごとの病床数

東京都地域医療構想 p.36、242-243参照

	高度急性期機能	急性期機能	回復期機能	慢性期機能	計※
平成26年度 報告結果	496床 5.4%	5,249床 56.7%	797床 8.6%	2,714床 29.3%	9,256床 100.0%
平成27年度 報告結果	235床 2.6%	5,468床 60.9%	939床 10.5%	2,333床 26.0%	8,975床 100.0%

※休棟及び未報告分を除く。割合(%)は機能ごとに小数点第二位を四捨五入。

(参考) 将来推計	患者数	628人	2,466人	3,033人	2,159人	8,286人
病床数	837床	3,162床	3,370床	2,347床	9,716床	
	8.6%	32.5%	34.7%	24.2%	100.0%	
2013年推計足元	病床数	748.5床	2,569.1床	2,627.9床	3,660.5床	9,606.0床

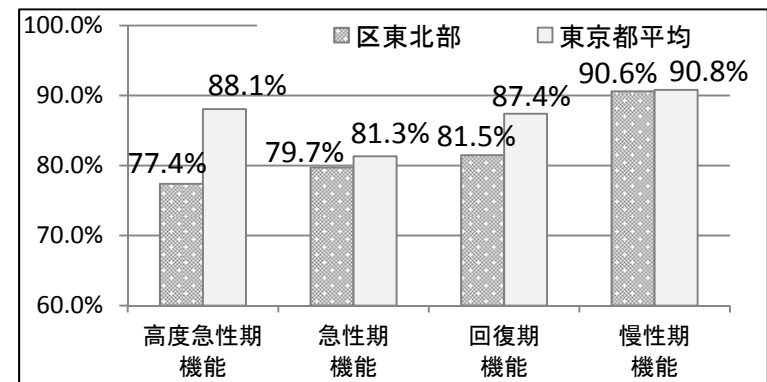


<データ2> 4機能と入院基本料

(床)

	高度急性期機能	急性期機能	回復期機能	慢性期機能
1	一般病棟7対1入院基本料 103	一般病棟10対1入院基本料 2,161	回復期リハビリテーション病棟入院料 628	療養病棟入院基本料 1,373
2	ハイケアユニット入院医療管理料 50	一般病棟7対1入院基本料 1,698	一般病棟15対1入院基本料 108	障害者施設等入院基本料 452
3	特定集中治療室管理料 35	一般病棟13対1入院基本料 739	地域包括ケア病棟入院料/入院医療管理料 89	介護療養病床 340
4	新生児特定集中治療室管理料 21	一般病棟15対1入院基本料 327	一般病棟13対1入院基本料 54	特殊疾患病棟入院料/入院管理料 51
5	救命救急入院料 20	有床診療所入院基本料 286	有床診療所入院基本料 39	一般病棟15対1入院基本料 47

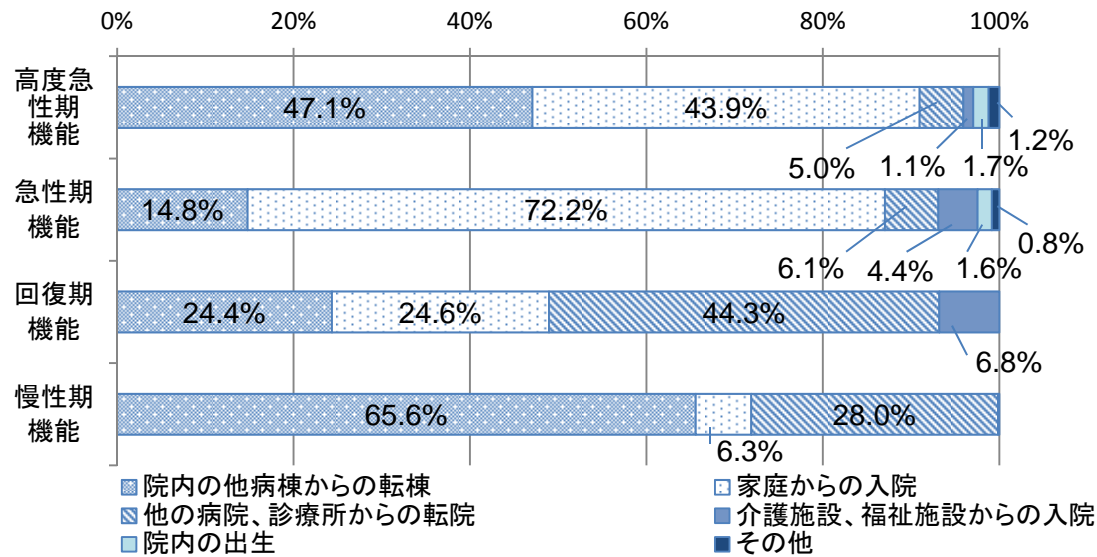
<データ3> 4機能と病床稼働率(病院)



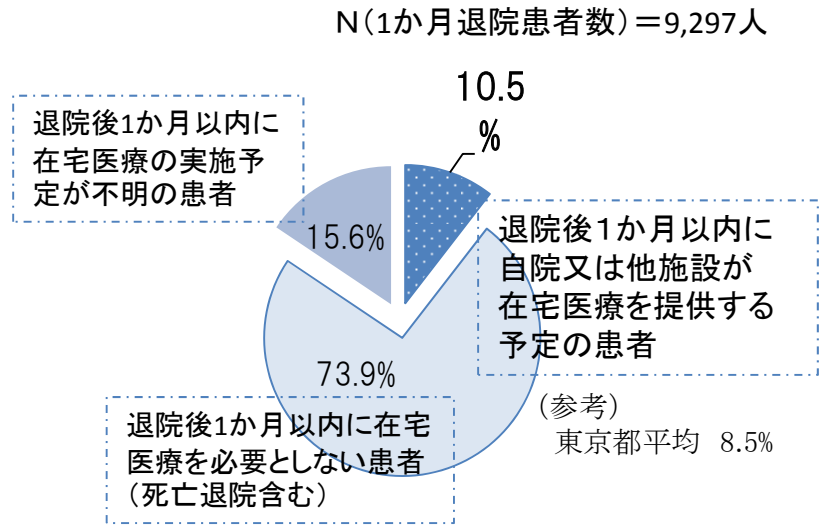
<データ4> 4機能と平均在院日数(病院)

機能	高度急性期機能	急性期機能	回復期機能	慢性期機能
平均在院日数	5.9日	11.9日	50.7日	152.5日

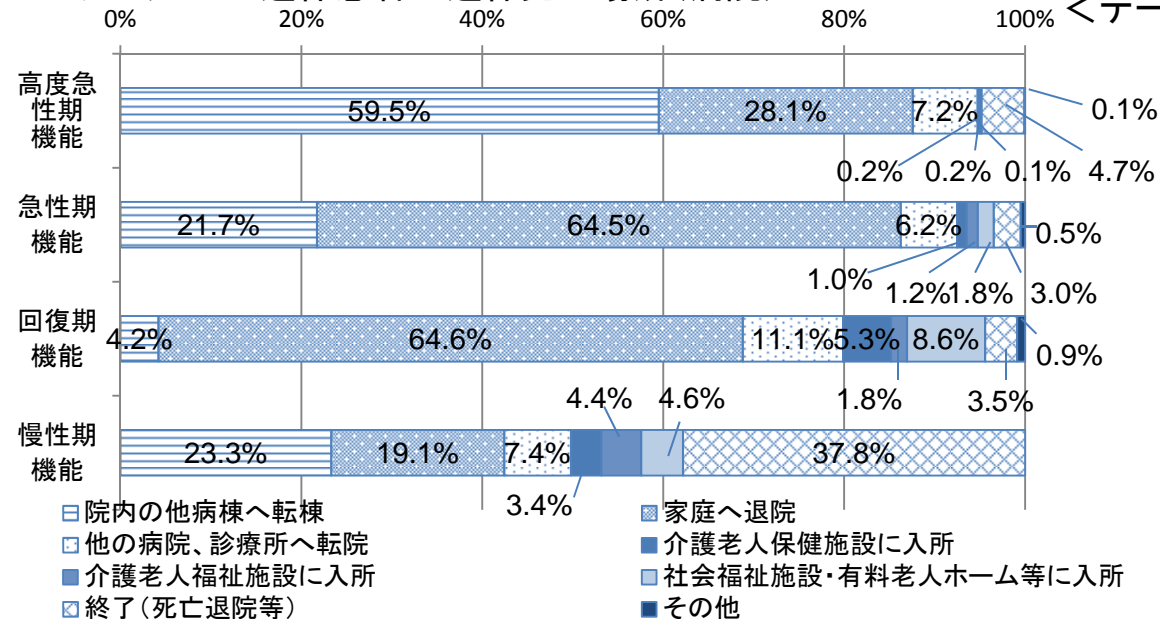
<データ5> 新規入棟患者の入棟前の場所(病院)



<データ7> 退院後に在宅医療を必要とする患者の割合(病院)



<データ6> 退棟患者の退棟先の場所(病院)



<データ8> 有床診療所が地域で果たしている役割

有床診の病床の役割	施設数	割合
病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能	9施設	24.3%
専門医療を担って病院の役割を補完する機能	15施設	40.5%
緊急時に対応する機能	13施設	35.1%
在宅医療の拠点としての機能	7施設	18.9%
終末期医療を担う機能	9施設	24.3%
いずれにも該当しない	7施設	18.9%

注 報告のあった37施設を集計。複数回答可。